

オープンカフェと歩行者天国と

~公共空間を活用して

名古屋都心で街なか回遊を楽しむ~

井澤 知旦

名古屋の都心は道路や公園などの公共空間が豊かなことで有名である。久屋大通のオープンカフェの取り組みもすでに11年目を迎え、昨年新たに南大津通で27年ぶりの歩行者天国が社会実験として復活した。環境の時代、都心を歩いて楽しむ時代にあって、これらの取り組みは重要性を増しているが、いくつかの壁もある。地域がエリアマネジメントすることで、利用者ニーズに応え、街なかを楽しめる環境を創っていききたい。



2011.9.18 歩行者天国の様子

はじめに

名古屋のまちづくりの特徴といえば、戦災復興事業により創りだされた、道路をはじめとする公共空間の豊かさにある。しかし、その評価を見れば、「道路を横断ばかりしている感覚」「すべてが表で、路地のような裏空間がなく、変化に乏しい」という否定的な意見もよく聞く。このことは公共空間の量の多さが問題なのではなく、使い方に問題がある。

そこで、その回答の一つに二〇〇〇年から実施している道路の歩道空間を活用した久屋大通オープンカフェの取り組みがあり、もう一つは昨年(二〇一一年)に二十七年ぶりに復活した南大津通の歩行者天国の社会実験がある。

この豊かな公共空間ストックをどのように街なか回遊に資すべきかを考える必要がある。これらの動向を整理しておく。

久屋大通オープンカフェの最近

久屋大通のオープンカフェについてはこれまでラバダブ紙上において〇二年と〇七年の二回記事にした(弊社のホームページにそれらの記事を掲載。ご参照ください)。今回の十二年でちょうど五年間隔となって再登場することになる。どのように変貌しつつあるのか、それを中心に記述する。

①オープンカフェの立地偏在……

初は百貨店の協力を得るため、広小路通以南を中心に設置されていたが、今では桜通以北に集中して立地する。昨年九月の事例では全体で十二ヶ所が設置されたが、うち桜通以北は十ヶ所であり、錦通以南は皆無であった。つまり立地が偏在しているのである。久屋大通の賑わいは桜通く広小路通の区間にある。そこは地下街のメイン通りであるとともに、地下鉄交通の結節点であることから、地上と地下を結ぶ出入口があり、その付近には合法・不法の駐車自転車が多いため、オープンカフェを設置しづらい環境にある。それに対し、桜通以北は一部に地下駐車場への出入り口があるものの、歩道をフ

ルに使用して、比較的交通量の少ない道路を隔てて閑静な公園がある環境はオープンカフェに向いている。しかも背後地は高級な都心居住地となっている。

②オープンカフェの設置目的……

十ヶ所中九ヶ所が飲食店による設置となっている。残り三ヶ所のうち物販が一ヶ所、サービス業が二ヶ所ある。持続性を求めるなら、オープンカフェの名のおり飲食が中心となるが、現状では売り上げ拡大というよりも、不法駐輪対策を含めた地域の環境向上(高級感の演出)にあるようだ。事実、周辺で分譲マンションが販売されるに当たり、その折込広告にオープンカフェの写真が掲載されるようになってきた。



最も利用されているオープンカフェ

③オープンカフェの質的向上……

初は出し入れしやすいうちに、レンタルの軽量プラスチックの椅子・テーブルを提供していたが、一年三六五日設置できるようにになってから、自前でそれらを用意する店も現れてきた。木製の椅子とテーブルと紺の木製バラソルや洒落たアルミ性のものなどである。持続条件はオープンカフェの質を高めていく。



質の高いお洒落なオープンカフェ

南大津通の歩行者天国の社会実験

このテーマについては、すでに弊社のメールマガジンにてコメントしている(二〇一一年・十一月・七)。

南大津通(七〇〇メートル)で歩行者天国が社会実験として、九月十八日(九月十三日)までの日曜日(正午~午後五時)に開催された。主催は南大津通歩行者天国協議会である。名古屋まつりを除く八回の実施となった。

名古屋で歩行者天国の実施は二度目である。一九七〇年九月六日(八四年九月末までの十四年間で)。道路上での舞台の設置やゲーム等を禁止したため、歩みだけの道路では魅力がなく、利用者の減少やゴミ等への批判、周辺道路への交通混雑の顕在化により、地元商店街から中止の要請が出されて、中止された。

今日は環境の時代、都心は歩いて楽しむ時代となっている。そんな時代背景での社会実験であるが、気づいた課題を整理すると次のようになる。

①歩いて楽しい歩行者天国を……

スファルト舗装の車道上を単に歩くだけでは、歩道幅が広がっただけで面白みは全くない。このままでは二十七年前と同様に中止になる恐れがある。名古屋では歩行を阻害するという理由で道路上でのパフォーマンスは禁止されている。最終段階で民地内ではあるが音楽ライブが実施され、楽しみを提供していた。ルールを決めてエンターテイメントを提供すべきではないか。



路上パフォーマンス?

②歩けば疲れる、休憩施設を……

歩けば人々は疲れ、高齢者が増えれば疲れの人々も増える。歩道は通行が原則のため、休憩のためのベンチは少ない。今回の歩行者天国では右折レーンの3ヶ所でオープンカフェセットが置かれているのみである。実態を見ると中央分離帯のブロッカーや衝突防止壁に腰かける人が如何に多いことか。一つのレーンを潰して休憩レーンをつくるぐらいが適当である。



歩き疲れて休憩する

③継続できるマネジメントを……

警備員も雇って、細心の注意を払いながら協議会のスタッフがかりきりになっている。これには人的労力だけでなく、資金もかかっている。それに呼応して各店の売り上げが大きく伸びれば実施し甲斐があるというもの、でなければ持続性は担保されない。また道路空間管理を前提にエリア広告を認めるなど、管理のための資金の確保も必要となる。にぎわいと売り上げ向上に向けた沿線店舗の協力、そして前述①と②、地域のマネジメント力を発揮していく必要がある。

公共空間を使いこなす

是非、南大津通の歩行者天国と久屋大通のオープンカフェをセットにして、道路幅員が広い名古屋ならではの活性化を図り、名古屋の名物として全国に発信したいものである。そのためには利用者本位の使われ方がなされているか、継続性が担保されているかが、今ここで問われることになる。